

月また御送金下さる由、有り難う御座います。今後は當分は御送金の爲め、なにかさ忙しのだらうと存じて居ります。此度は又郡の方面委員聯合會長に推薦せられた

失禮いたします。御身御大切に九月三十日午前九時 拜啓、本日無事卒業致しましたか御安心下さい。身も至つて健康ですから其の点...

山舞ひ込の思ひも、全社總動員を取敢へず二部技手が乳絞りに、つたが甘くない、之は二里以上も歩、来た爲だらう。其にして先、瀬戸太田の兩氏に見ていた

本紙發行は内一家の事業にして、其の社務は子孫に對する遺言を授かるものなり。

本紙發行所 内郷村 昭和二十二年十月十日

### 内郷村報の 六大使命

- 一、政黨政黨を超越して、村方充實主義を標榜す。
- 二、村内外公私各種の活動状況を調査し併せて其協同を計り、総現和總努力の實現を期す。
- 三、本村社會事業の徹底を期す。
- 四、村内の善事善行を表彰し、且之を奨励す。
- 五、本村を本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
- 六、餘餘力を以て國民黨選挙に當る。

# 内郷村報

天法人則 從順ナ

## 火のおこし方

### 天法人則

大内民惠

予は過去數ヶ月間、奥羽各縣を旅行し、多數の旅館を宿り歩いたのであるが、宿につけば先づ、大旅館では女中、小旅館では主婦自身が、必ず火を持つて来る。而して其火のおこし方と、炭のつき方とを、よく見てゐると、その十中八九は何れも落第なのである。殊に我東北地方は、重に堅炭をつかふので、なか／＼おこらないし、又よくおこつたものを持つて来ても、其處置がよろしきを得ないので、消えて仕舞ふのである。そこで予は、最近到る處の宿で、其落第した女中なり主婦なりをつかまへて、火のおこし方、炭のつき方を教授し、併せて天法人則の講義をして聞かせたのである。左は其大要である。先づ二三ヶの火種を、火鉢

の中央に置き、それに適量の炭をつぎ重ね、其底邊の四方に、火種に通ずる間隙をつくり、  
マアよく見なさい！  
かうして置くと、火種のまはりの空氣が、熱をうけて膨脹し、軽くなつて上昇する爲に、四方の間隙から、空氣がごん／＼とはいつて行つて、火は勢ひよくおこつて行くのである。かくて七八分通りおこつた處で、四方から灰を掩ふて置けばよい。かうさへすれば、どんなに質の悪い炭でも、又堅炭でも、斷じておこらない事もない。それから炬燵の火は、灰を深く掘つて適量の炭を入れ、其上によくおこつた火を一面にならば、うすく灰をふつておけば、

しばらくすると、上に乗せた火が、下の炭にうつておこり始める、其時を見はからつて、上部をすこし残して、四面から灰をさつぷりと、掩ふて仕舞ふのである。而してこれにあたる時には上部の灰を少しつゝかきのければよいのである。かうさへしておけば、大抵一晝夜位はもつものである。と、其一般方法と處置とを説明し、それからそろ／＼天法人則の講義にうつるのである。  
マアよく聞きなさい！  
我々御同様が、かう寒くなれば、綿入も着れば、厚い外套も着る、それが春ともなれば、袷に着がへ、外着なども入らなくなり、夏になれば、薄着、薄い夏服を着、又素裸にもなる。それから我々は、晝はかうして起きて働いて居るが、夜にはいつて眠るのである。又我々は毎日三度の食事をして、此體を養つて居る。而してこの通りにして此の世の中に生存して居る我々も、其壽命が盡くれば、いやでもおうでも、往生しなければならぬのである。汽車や飛行機が、走つたり飛んだり、或は今この火をおこしたり、炭をついたりするにしても、深く考へて見ると、皆そこに動かぬ一貫した「きまり」がある。予は其「きまり」を、天の法則即ち「天法」といふて居るのである。その天法たるや、實に廣大無邊なもので、あらゆる宗教とか哲學とかいふものは、皆此天法から割り出されて居るものである。偉い人達が、いろいろの發明をなさるが、其發明といふものは人のまた氣のつかない天法の一部を發見して、それに種々の工夫を加へて、人生の役に立てる事なのである。  
次に此地球上には、幾十億の人間が生きて居るが、此等人間同士は、お互に仲よく楽しく、幸福に暮して行かなければならぬ。それには又これにも、何か一つ一貫した「きまり」がなければならぬ。それで長い年月の間に、また天法から割出して、道徳とか、法律とか、習慣とかいふものが出来た。來たのであつて、我々は、どうしても、飯を食つたり、衣服を着たりすると同じ様に、其「きまり」に従はなければならぬ。それに對して、予は「人則」と名づけてあるのである。以上を一括して云へば、人

間は須らく「天法人則に従順なるべし」といふ事になるのである。  
恐れ多い次第ではあるが、我大日本帝國は、「天法人則」其まゝを顯現して居る眞に有り難い國家であつて、教育勅語の聖旨を、拳々服膺する事は、則ち天法人則に従順なる所以である。と拜察し奉るのである。  
此度の日支事變の如きも、支那が天法人則に反した、行動をとつて居るので、皇軍が之に懲懲を加へて、其反省を促して居る次第なのである。かう考へて來ると火をおこす事も、亦炭をつぐことも、ゆる／＼おこせにしてはならぬ事が、解つて來るのではないか、云々。  
× × ×  
彼等は、實際にわかつたかどうかはわからぬが、何れも「ほんたうにそうなのである」と大きくうなづくのであつた、  
呵々。  
昭和二十二年十月八日夜山形縣小松町米屋旅館にて執筆脱稿  
白石 鈴木綾園  
本誌ニユース聞か乍ら編む毛糸哉三代のあるじに使へ夷譜  
矢の如くさぶ小鳥あり冬木立南天をいけてケマの像をおく

# 厄年を危く経過して

崎善三郎

八、戸義公

去年の春の一日、事務室で仕事をしていると、庶務課の青山勤君が「水戸から石刷を持って来てをるが見ないか」と云ふ。應接室に行つて見ると、光園公東湖等の石刷を、展べてゐるところであつた。「光園公が御生前御自分の墓を建てられたその墓石の裏面に御自作の



碑墓生先里梅

高真版は鮮明ではないが「梅里先生墓」と刻まれている。

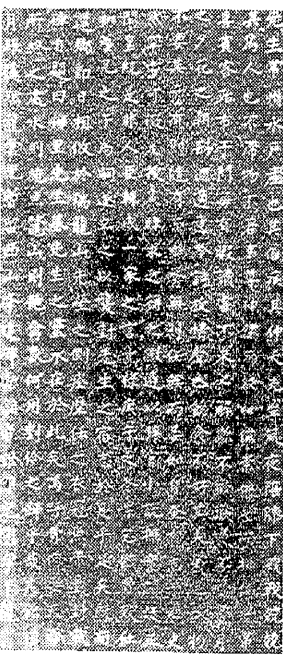
碑文を彫られたのが之ですと説明するのを、そんな事もあつたのかなあと、思ひながら読んで見ると、それは實に奇想天外といはふか私共の到底想像も及ばぬ、大文章でありました。光園公の偉いところは、誰しも知りぬいてをることであるが私は此の御自作の碑文を讀んで、初めて腹の底の底から「光園公はほんたうに偉

かつたわい」と痛感した第でありました。

光園公は、元録四年五月六十四才のとき西山莊に隱居せられ、その年十二月、水戸家歴代の墓所瑞龍山に公自ら「梅里先生墓」と題せられた石碑を建てられ、その石碑の裏面に、此の御自作の碑文を彫られたのであります。公は此の碑を建てられてから九年の後、元祿十三年十二月七十三才で西山莊に於て薨去されました。原文は錫鐵寫真版の如く、漢文で出来て居ります讀んで見ませう。

「先生は常州水戸の産なり、其の伯(長兄)疾(其の仲)仲兄(仲兄)天す。先生夙夜靡下にして、戰々兢兢たり。其の人の爲りや、物に滯らす事に著せず、神備を尊んで神儒を敬し、佛老を崇めて佛老を排す。常に賓客を喜ひ殆んど門に市す。暇ある毎に書を讀み、必ずしも解するを求めず、歡べども歡びを歡びさせず、憂へども憂ひを憂ひさせず。月の夕、花の朝、酒を酌み意に適すれば詩を吟じ、情を放つ。壁色飲食其の美を好まず、第宅器物其の奢を要せず。有れば有るに隨て樂習し、無ければ無きに任せて委如たり。蚤くより史を編むに志あり、然れども書

徴すべき學なり、爰に搜り、爰に購ひ、之を求め、之を得たり(微(す)しく(迷)る)むに神官小説を以てし、實を撰(ひろ)ひ(疑)を調(か)き、皇統を正(た)し、人臣を是非し、輯めて一家の言を成す。元祿庚午の冬、累りに骸骨を乞うて致仕す。初め兄の子を養うて嗣(ついで)とし、途に之を立て、以て封を襲がしむ先生の宿志、是に於てか足れり既にして郷に還り、即日依(よ)り(こ)る)を瑞龍山先塋の側(そば)に相(あ)い(あ)は(せ)る)衣冠魚帶(うづ)め(め)載(の)り封(つ)じ、載(の)り碑(い)し、自ら題(な)して梅里先生の墓と曰ふ。先生の靈、永く此に在り。嗚呼、骨肉



文碑の面裏碑墓

は天命終る所の處に委せ、水には則ち魚鼈(ぎよべつ)に施(ほ)じ山には則ち禽獸(きんじゆ)に飽(あ)かしむ。何んぞ劉伶の罇(すき)を用んや其の銘に曰ふ。月は瑞龍の雲に隠る(かく)る(と)雖も、光は暫く西山の峰(たかね)に留(と)まる(と)碑(い)を建て銘(な)を勒(お)る(と)する者は誰ぞ、源光園字は子龍(りゆう)註(しゆ)劉伶(りゆう)は、昔支那(しな)の國(くに)に任(ま)りて、建威將軍(けんゐ)となつた人、人間は何時何處(いつときいつところ)で死(し)ぬか分(わ)からぬ己(おのれ)が死(し)んだならば、そこに穴(あな)を掘(ほ)つて埋(う)めよとて、外出(でしゆ)の時(とき)は、常に從者(じゆうしや)に錚(せい)を持たせて歩(あ)いたといふことである。

光園公は、此の碑文を御作りになつた當時、儒臣吉弘元常に、次の手紙を與へられ、添削(てんせつ)を乞ふて居られます。

此度(こたび)下官(げくわん)辭職(じじき)の上(の上)自(みづか)碑(い)面に梅里先生墓と彫り申候。就(す)夫(その)碑(い)陰(かげ)に、少(すこ)我(われ)等(ら)年(とし)來(きた)の意(い)を刻(う)み申(ま)候(こう)故(ゆゑ)、頃(ころ)日(ひ)致(いた)下(げ)書(しよ)候(こう)。素(もと)文(ぶん)不(ふ)調(てう)法(ぽう)、別(わか)り見(み)苦(くる)候(こう)へ共(とも)、此(こ)趣(そ)は他(た)より難(がた)書(か)書(しよ)に候(こう)間(ま)、自(みづか)身(みづか)先(ま)づ下(げ)書(しよ)致(いた)候(こう)。貴(あなた)殿(だん)一(ひと)覽(らん)し、思(おも)ひ寄(よ)之(の)處(ところ)處(ところ)座(ざ)候(こう)は、點(てん)削(せつ)所(ところ)希(まれ)也(なり)。是(こゝ)は萬(ま)々(ささ)歳(さい)殘(ざん)りて天下(てんか)の口(くち)碑(い)に預(あ)り申(ま)候(こう)間(ま)、必(かならず)々(さ)々(さ)無(な)腹(はら)藏(ざん)御(ご)申(ま)候(こう)可(か)給(たま)候(こう)之(の)對(たい)し元(げん)常(じやう)は、此(こゝ)度(たび)の御(ご)文(ぶん)章(ぢやう)、高(たか)妙(めう)趣(そ)深(ふか)、全(ぜん)篇(ぺん)奇(き)々(さ)々(さ)、奉(ほう)驚(おど)候(こう)。

此の歸(かへ)まで、これ程の碑文を全然知らなかつたのは何としても恥(はづ)しい次第(しだい)で、青山君(あやま)が紹介(かい)して呉(くれ)ねばどうしよう引導(いんどう)を渡(わた)されないうで、しまつたのでありませう。何を措(た)けても、早く此の大偉人(たいゐじん)に、敬意(けいぎ)を表(あらわ)して置(お)かねばならぬと、去(い)る七月(しちがつ)四(よ)日(にち)、水戸太田(みづと)在(あ)り、瑞龍山(すいりゆうさん)の、公(こう)の御墓(ごぼ)に參詣(さんぎ)致(いた)しました。梅里先生墓(ばいりせんせいぼ)は御墓(ごぼ)の前面(ぜんめん)、二十步(じゅうにふ)の所(ところ)、堂宇(だうう)の中に建てられてありました。御禮(ごれい)詣(ぎ)りも濟(た)んで清々(せいせい)してゐるわけでありませう。

## 教育制度改革概論

矢野恒太郎 大内民憲 著

行(な)き語(ご)れる現代(げんたい)の教育制度(きよくせいど)を解(と)き、學(まな)びと實際(じつげん)と、歴史(れきし)とを論(ろん)じて、新(あら)に大内(おうち)九(く)主義(しゆぎ)を提(てい)唱(ちやう)す。天下(てんか)知名(ちか)の士(し)の賛同(さんどう)校(がう)に送(おく)らる(と)す。未(いま)だ一人(ひとり)の抗(かう)議(ぎ)者(しや)も現(あら)はれず。

我國(わがくに)教育學界(きよくがくかい)の巨(こ)匠(じやう)前(まへ)京(きやう)大(だい)總(そう)長(ぢやう)小(こ)西(せい)重(じゆう)直(ぢく)博(はく)士(し)を寄(よ)せて曰(い)く、多年(たねん)ノ御(ご)禮(れい)贈(く)下(げ)實(じつ)地(ぢ)ノ御(ご)試(し)験(げん)ニ基(き)キテ學(まな)びと實際(じつげん)ノ大(だい)體(たい)ヲ示(し)す。取(と)次(じ)所(ところ) 内(うち)郷(がう)村(むら)報(はう)社(しゃ)。

發行所(はつぎんじよ) 日本(にっぽん)評(ひやう)論(ろん)社(しゃ) 東京(とうきやう)三(さん)丁(ぢやう)目(め) 取(と)次(じ)所(ところ) 内(うち)郷(がう)村(むら)報(はう)社(しゃ) 東京(とうきやう)三(さん)丁(ぢやう)目(め)

## 磐炭の南京陥落 祝賀旗行列

磐炭(いはん)に於(お)ては、十二月(じふにがつ)進(しん)、全(ぜん)山(さん)國(こく)旗(はた)を以(もつ)て埋(う)めるのか、その成績(せいせき)に驚(おど)くべきものがあつた。しかも一枚(まい)の薄(うす)き錫(しやく)紙(し)が、積(た)り積(た)つて何(なん)貫(くわん)目(め)の重(おも)さに達(た)し、生(な)きた教(きやく)訓(くん)を自ら(みづか)兒童(じゆう)に示(し)す

してゐるので、第二回(だいに)の献(けん)金(きん)も問(もん)もないことであらう。女子(こしよ)青年(せいねん)團(だん)

るもの七百名(しちひゃく)名、立錐(たてしづ)の餘(あま)地(ぢ)もなく、女青(にょせい)の唱歌(しやうか)、舞踊(まひやく)もなく、琵琶(びば)、漫談(まんだん)等に非常(ひじょう)時局(じきよ)の氣分(きぶん)が横溢(ぎやういつ)し、文字(もんじ)通(と)りの大(だい)舌(ぜつ)捲(くわん)て感(かん)歎(たん)するところ多(おほ)し。

# 村會決議概要

十一月十七日午前九時より開會左記の件を可決せり。

議案第一號  
村吏員給料支給條例中改正の件。

第六條の二、本村有給吏員にして戦時若くは事變に因り、陸海軍に召集せられたる者は、現職の儘とし給料全額を支給す。但し陸軍給與令又は海軍給與令に依り俸給を受け、其額が本職の給料額より寡少なるときは其の不足額を支給す。

## 入營兵送別會

特別税戸數割及授業料  
減免規程設定の件  
戰爭又は戰爭に準すべき事變に應召せられたる軍人、又は遺家族に對しては特別税戸數割及授業料の減免をなすことを得。

十一月廿日午後一時より、村會議事堂に於て、村主催の入營兵送別會を開催、村內有志等列席、村長の挨拶、各種團體代表者の祝辭、入營兵總代答辭、次いで折箱にて神酒の饗應あり、村長の音頭にて萬歳を三唱し、午後三時半解散した。

## 陪審員候補者

十一月二十四日午前十時より當役場にて生田常弘、山崎佐市郎、山崎辰亥、の四氏立會の上抽籤を施行、齋藤祐治、草野喜三郎、馬目子之松、佐藤三平の諸氏當選した。

十一月二十四日午前十時より當役場にて生田常弘、山崎佐市郎、山崎辰亥、の四氏立會の上抽籤を施行、齋藤祐治、草野喜三郎、馬目子之松、佐藤三平の諸氏當選した。

## 税金賦課規則改正

本年度臨時地方財政補助金交付に依り、税の賦課率が左の如く四月より更正。其の負擔が軽減せられた。

- 一、縣稅地租附加稅、地租一圓に付一圓三十錢二厘の所八十二錢に更正
- 一、特別地稅、賃賃價格百圓に付四錢九厘の所三錢一厘に更正
- 一、家屋稅、賃賃價格一圓に付三錢一厘五毛の所二錢九厘四毛に更正
- 一、軍事扶助法に依る扶助者の特別地稅は免除
- 一、軍事扶助法に依る扶助者の所有家屋は免除
- 一、自轉車稅は年額(縣村稅共)六圓六〇錢の所三圓七十八錢に減稅
- 一、リヤカー稅八平方尺未満のものは免除、其れ以上のものは年額(縣村稅共)三圓七十八錢の所二圓十五錢に減稅

尙自轉車、リヤカー並に家屋稅の賦課は前記賦課額より過納額を差引き今期賦課とした。

## 火防デー

十二月一日は全國一齊火防デーなるを以て、本村に於ても村消防組幹部一同出席、各戸について、竈の調

査並に火の用心の趣旨徹底を行つた。

## 消防幹部異動

消防第五部小頭、遠藤嘉一氏辭職に付、其の後任として草野恭一氏の任命を見た

## 慰問文

今回村長及吏員一同にて、左の如き慰問文を、各地に奮闘せる本村出征將兵に送附した。

拜啓湯ノ嶽山頂すら今や白雪を見候ものを御地は何程か寒さの激しからん事と御察し申居候 滿洲及支那に不斷の奮闘を續けられある諸君の行動は毎日の新聞及ラヂオを通じ承知、綴驛頭出發の面影を偲ひ只々感謝の外無之遙かに御武運の長久を祈居候 左に村內一般の概況を一二御通知申上候

一、時局柄村民一般の氣持は引締り一層業務に精勵し、戦前の如き「忘れぢやい、や」といふ俗語全く跡を絶ち、老いも若きも軍歌のみ途行く兒童も「勝つて來るよ」と勇ましく、と聲高らかに戦時氣分を發揮しあり候。諸君の後援部隊たる在郷軍人、青年團、青年訓練の方には出動を覺悟何れも猛訓練を致し居候

威するが如きは無之御安神下され度候

三、營炭目下水前にも増し出炭多く加ふるに炭價も高く社運益々隆昌の由に候

四、農作物本年は稀有の天候に恵まれ殊に秋の取上げ時の好かりし爲稀れに見る豊作ありしは御同慶に不堪候

五、十一月十六日より同月廿三日まで關東北一帯に亘り防空演習を施行せられ殊に當村は縣下各市湯本町と共に甲地域として最も嚴格なる狀況の下に演習に参加し候處村民無音の中に某國の飛行機來襲時を胸に描き眞劍味に従事講評も頗る良好に御座候

六、各種團體の行動特に先月初め愛國婦人會の發會式を行へ共決議に基き國防獻金留守宅の訪問さては出征軍人の見送り等熱心なる活動を致し居候  
今や會員一千二百名を突破するの盛況に御座候

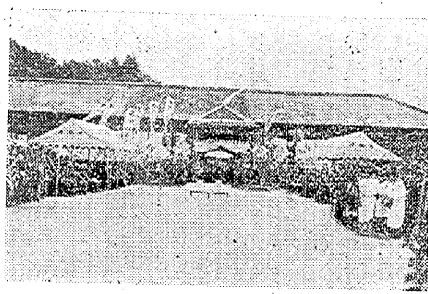
七、國防婦人會昨日村分會は高坂小學校に炭礦分會は淺野會館に各發會式を擧ぐ是又非常なる盛會にて有之候  
自今愛國國防兩婦人會は一丸となり互に協力統後婦人として一層の活動をなさんとす非常なる意氣込みに候

八、南京の陥落目捷に迫り當村にては快報を待ち祝賀の大行進を行はんと其の準備中に候恐らく御手許に此の手紙の達する頃は諸君にもさげすみの萬歳が絶叫せらるゝことと存候  
九、御手紙を頂きまして或は御返事も差上げず過ぎ居りし方々に對しては御禮と御詫び申上候  
以上呉れども御自重爲邦家益々御精勵あらん事を祈り上候

# 空前の盛儀

## 兩勇士の村葬

十一月二十七日午後一時より、第一小學校々庭に於て陸軍歩兵伍長加藤政英、滿洲國軍屬廣井廣三兩勇士の村葬が行はれた。



加藤廣井兩勇士の村葬

へ、各遺族並に村長を始め村内は勿論、縣下あらゆる方面の代表者、無慮七百餘名が、威儀を正して参列、先づ三十有余名の僧侶によつて、懇ろなる回向供養が行はれ、次いで沼田祭主の祭文、各代表者數十名の弔辭奉讀ありて、午後四無事終了した。

### 國防献金と慰問品

(國防献金)  
百圓 御院 廣井將順  
百圓 小島 加藤武久  
七拾錢 全 遠藤一二  
(恤兵金)  
八圓四拾錢 (軍馬用干草)  
御臺境青年分團  
山崎武男外二十名  
百圓 小島 加藤武久  
(出征軍人家族扶助金)  
九拾參圓八拾錢 廣井將順  
加藤武久  
拾圓 加藤武久  
總計金貳千參百貳拾參圓  
五拾八錢  
(慰問品)  
慰問袋壹個 宮瀧米川キクノ

### 國防婦人會發會式

十二月五日午前九時より高坂小學校に於て、國防婦人會發會式を舉行、入會者約七〇〇名にて、出席會員五二〇名。講演として警中配屬中村中佐の二時間に渉る時局講演あり宣言を決議して午後〇時半閉會した。

### 消防秋季檢閲

十二月十二日午前七時より金坂グラウンドに於て、平警察署長臨席、一般査閲を行つて、懇ろなる回向供養が行はれ、次いで沼田祭主の祭文、各代表者數十名の弔辭奉讀ありて、午後四無事終了した。

頭佐藤三平、前小頭遠藤嘉一、内野木政信三氏の送別會を因に特筆すべきは、多年本村消防界に貢献する所多きを基本金中に金壹百圓を寄附した事である。

### 急告

縣稅、雜種稅、營業稅、家屋稅、同上村稅附加稅は、本月二十日納期限であり、ますから、御忘れなく納めて下さい。

### 納稅デー

公共的精神を喚起し、自治精神の強化向上を圖り、十二月二十日より二十四日迄五日間、縣下一齊に納稅デーを實施することになりたるを以て、本村に於ても其の主旨の徹底を期する爲め、納稅組合の督促、優良納稅組合設置の奨励、優行組合並に功勞者の表彰を行ふ組合定である。置したる向に納稅組合を設け、より一戸當り拾錢以内、豫定である。

### 愛婦會祈願

本村愛國婦人會分會御願、長野木タキヨ氏外二十餘名の會員は毎月一回朔日祈願のため、縣社武運長久祈願社へ参拜、特に茂天神外願社には、午後十時まで参籠祈願をこめてゐる。

### 方面委員會

十二月四日午後一時より、村會協議堂に開催、左記の一件を協議決定した。

### 方面事業

一、各各種社會事業の施設、救護法による能はざるもの、生活扶助、醫療、助産、生業扶助、埋葬等に關する事項に關する調査、研究、視察、講演に關する事項。  
二、生活改善に關する事項、各種社會事業團體の交渉、

六、涉協議に關する事項。助成するに必要と認むる事項。

### 青年學校の査閲

烈風吹きさぶ十二月一日、内郷第二小學校庭に於て、内郷青年學校、同業青年學校の教練査閲が行はれた。査閲官は、警中配屬の中村中佐であつた。生徒は眞剣に日頃の教練を實演した。尚當日は、國防婦人會の女子青年團員の參觀もあつた。査閲時體制下の緊張した査閲状況をみる事が出来た。最後に沼田少佐の實戰談は、生徒に非常な感奮を與へ、また二指導員の壯烈な戦死を堀校長から講話され、尙格段の努力邁進を約して散會した。

### 農家曆

十二月 整理の月  
(下旬) 桃梨の冬期前定、菜園の寒肥。諸帳簿の整理、農具の整理、農場の整理、果樹園の中耕除草、堆肥の製造。  
一月 睦月  
(上旬) 新年度農業經營豫定樹立、家計簿記帳開始、舊年度の帳簿の整理と、一ヶ年の反省と共に收支の概況を家族一同に知らせむ。穀物の調製及種子の整理、堆肥の推積及切返し、副業生産物増殖として農具の手入及農細工其他加工品調製。  
(中旬) 臘種の寒小洗、果樹類冬季剪定、麥の追肥中耕並に移植、家宛の畜殖、冬種圃地組合事業計畫樹立、促成栽培管理。



矢野 恒太序 大内 民憲著

### 教育制度改革概論

(四六版二一頁 定價五十錢 郵税六錢)

私は此の御自作の碑文を讀んで、初めて腹の底の底から「光園公はほんたうに偉

器物其の奇を要せず。有れば有るに隨て樂行し、無ければ無きに任せて委如たり。豈くより史を編むに志あり、然れども書

己れが死んだならば、そこに穴を掘つて埋めよとて、外出の時は、常に從者に錐を持たせて歩いたといふことである。

も何とも云ひやうのない、感に打たれました。此の驚き、此の感じを、何と表現

の中に建てられてありました。御禮詣りも済んで清々してゐるわけでありませう。

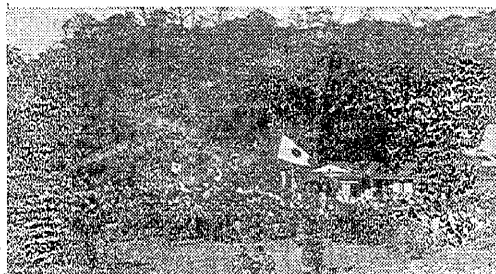
行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理と實際と、歴史と實驗とから新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の賛同攻撃に違あらず。これぞ未だ一人の抗議者も現はれず。

我國教育學界の巨擘 前京大總長小西重直博士 書を寄せて曰く、多年の御體験と實地ノ御試練ニ基ク其學界ノ大精神ヲ拜味仕リ不恩感謝ニ行ハレ申候云々。

發行所 日本評論社 東京京橋三丁目 販次所 内郷村報社

## 磐炭の南京陥落 祝賀旗行列

磐炭礦に於ては、十二月十三日の公休を卜して、南京陥落の祝賀旗行列を行つた。此日正午を期して、全山六千の従業員は、それぞれ町田坑は宮山神社、住吉坑は御殿山神社、綴坑は綴山神社の各境内に、各自國旗を手にして集合參拜、樂隊喇叭隊を先登として、堂



るたし集參に場動運坂金 部一の隊列行旗祝落陷京南

々金坂運動場に繰込み、開式の辭(田中勞務)祝辭(菅原所長)別項參照—上原課長代讀)皇居遙拜、萬歲三唱(上原課長音頭)の順序に一大祝賀式を舉行。かくて全員それぞれ所屬方面を、軍歌を高唱しつゝ、行

### 兒童の赤誠

#### 第二校の醜金

當村第二小學校に於ては、去る十一月十日より一週間の國民精神作興週間を期して、兒童の廢物獻納を試みたところ、時局の深刻な波は、可弱き兒童をも驅つて國家意識に目覺めさせたも

の、その成績實に驚くべきものがあつた。しかも一枚の薄き錫紙が、積り積つて何貫目の重さに達し、生きた教訓を自ら兒童に示すことが出来た。

女子青年團 内町支部の活動(二) 同支部は、銃後の結成を益々固め、戰時体制下に於ける女子青年としての自覺に燃えてゐるが、去る十一月五日、團員の自主的な發起で、内町校指導部の指揮に依つて、資金募集のため唱歌と舞踊の會を淺野記念館に開き、大成功に終つて全會幹部を喜ばせた。當日同會の趣旨に賛同して來會す

### 南京陥落旗行列祝辭

磐炭炭礦株式會社 礦業所 長 菅原萬治郎

我國三千年來の使命たる、皇威を宇内に宣揚し、以て東洋永遠の平和を確立せんが爲に、支那騰越の聖戰を進めて茲に六ヶ月、敵將蔣介石が、難攻不落と豪語した敵の首都堅陣南京は我精銳無比の皇軍の、果敢なる攻撃に依り、遂にこの陥落を見るに到つたのであります。誠に感謝感激に堪えず、茲に慶祝の旗行列を舉行する次第であります。今次事變が一度七月七日、瀟湘橋事變より突發するや、戰局は北支より一轉して江南の水澤廣野に擴大し、蔣介石は、我帝國の實力誤認と、自己の力を過信し、且つ歐米列國の同情と支援とに信賴し、抗日の勢力いよいよ強烈の度を加へたのであります。而して上海其他各地に、近代的防備の構築をなし、あまねく世界に難攻不落を誇つたのであります。遂に十月二十四日の總攻撃により上海の堅陣は突破せられ爾來十年の榮華を極めし首都南京は、皇軍の重圍に陥り、敵の豪語もものは、遂に陥落を遂げた次第であります。このに於てか歐米の諸勢力は中南支より驅逐せられ、皇國發展飛躍の基礎は、確立せられたのであります。されど翻つてかゝる偉大なる戰果を獲得したる反面に於て、我皇軍將士の壯烈なる奮闘と、護國の鬼と眠れる忠勇義烈の英靈に對しては滿腔の感謝と弔意を表する次第であります。我々磐炭炭礦従業員は爾今益々一致結束産業の戦線に邁進し、銃後の護りを固め、以て報公の至誠を致さねばならぬと信じます。本日祝賀式に臨んで、皇軍將士に滿腔の感謝をなし、祝辭となす次第であります。

- 本紙贊助金寄贈芳名
- 金五圓 東京 渡邊得男
- 金五圓 白石 鈴木菊藏
- 金五圓 郡山 國分久
- 金五圓 仙台 渡邊三郎
- 金五圓 東京 渡邊茂
- 金五圓 札幌 山用誠
- 金五圓 大阪 川口貢
- 金五圓 京都 古川武雄
- 金五圓 京城 三浦進一

冬の日をあびて休養して居たり

東京 鈴木貞二  
兵送る秋雨傘をかざし合ひ  
馴れてきし下宿暮しの夜食かな  
白石 鈴木 貞  
風邪の子の寒入りし顔のぞき見  
人足のたえたる雪の家を訪ふ  
雪の道たえたるまゝにかへしけり  
福島 内池よし子  
花鳥に風になりたる野をいそぐ  
花鳥や見下す崖のおそろしく  
白石 鈴木六一郎  
音丸の歌をきき、つ、炭をつぐ  
白石 鈴木きく枝

